

報道関係各位

株式会社イーオン

イーオン、中学・高校の英語教師を対象とした 「中高における英語教育実態調査 2015」を実施

英会話教室を運営する株式会社イーオン（本社：東京都新宿区、代表取締役：三宅義和、以下「イーオン」）は、中学・高校で英語を教えている現役教師 283 名を対象に、「中高における英語教育実態調査 2015」を実施しました。

イーオンでは昨年より、中学・高校の英語教師を対象にイーオンの指導ノウハウを提供する「英語を英語で教えるための指導法セミナー」を開催しており、本年は全国 5 都市の開催で、のべ 300 名を超える英語教師の方々にご参加いただきました。

そこでイーオンでは、ご参加いただいた英語教師の方々を対象に、「授業を行うにあたり困難に感じていること」や「自身の学習状況」「大学入試への外部試験導入についての考え」などについて、実際に現場で生徒に英語を教えている現役教師の方がどのように考えているのかを、昨年に引き続き調査しました。主な調査結果は以下の通りです。

＝調査結果トピックス＝

- 先生が最もサポートを必要だと感じているのは、中高ともに「英語で文法を教える」こと。
「スピーキング指導」「ライティング指導」など“4 技能化”にともなう項目が上位に。
現在の授業、教授法について、サポートが必要であると感じていることや困難に思っていることについて尋ねたところ、中高ともに「文法を英語で説明する」ことを挙げる先生が過半数を超え、トップとなりました。2 位以下も、中高ともに「スピーキング指導（高校では同率 1 位）」、「ライティング指導」が続くなど、昨年とほぼ同様、“4 技能化”にともなう項目が上位に並ぶ結果となりました。
- 「教科書にもっと盛り込んで欲しいと思うスキル」、
高校では「プレゼンテーション」、中学では「フォニックス」がトップに。
現在の中学・高校の英語教育で、教科書にもっと盛り込んで欲しいと思うスキルについて尋ねたところ、高校では「プレゼンテーション」が 2 年連続でトップとなりました。以下「ディスカッション」「スピーチ」と続き、昨年同様「話す」スキルに対する項目が並ぶ結果となりました。一方中学では「フォニックス」が 1 位となり、より基礎的な項目を重視する傾向が見られました。
- 自身の英語スキルアップに費やせる時間が、1 日 1 時間に満たない先生が中高とも約 8 割。
ただし「全く取れない」の割合は 1 割程度と低く、何とか時間を確保しようとしている様子も。
先生自身の英語力アップのための取り組みについて、どれぐらい日常的に時間を割けているのかを尋ねたところ、中高ともに 1 日 1 時間未満（全く取れないを含む）という回答が約 8 割となりました。ただし、特に高校では「全く取れない」と回答した割合が全体の 1 割以下となっており、限られた時間の中で、どうにかやりくりしてスキルアップの時間を確保しようとしている様子が見て取れました。具体的な取り組みとしては、高校では 8 割、中学でも 7 割を超える先生が「書籍・教材」を挙げる結果となりました。
- 大学受験・英語科目への外部試験導入について、中高とも約 7 割が「賛成」。
導入にふさわしい試験は「英検」が躍進する結果に。
大学入試での英語科目の外部試験導入について、どのように考えているのかを尋ねたところ、導入に賛成する声が高中ともに約 7 割に上りました。具体的な外部試験を挙げてもらうと、高校では 2 年連続で TOEFL がトップだったものの、中学では英検が TOEFL を大きく上回り 1 位となりました。英検は高校でも 2 位につけ、中高の総数では 1 位となるなど、英検に対する再評価が見られる結果となりました。一方で、TOEIC は、中学では 2 位につけたものの高校では最下位に終わり、評価が大きく割れる結果となりました。G-Tec や TEAP、IELTS にも、それぞれ 15 票を超える票が入っており、外部試験に関する注目度が全体的に上がっていることが見て取れました。

■調査の概要

調査対象：中学・高校の英語教師 283 名（中学：121 名、高校：162 名）

＜内訳＞公立高校：102 名、私立高校：60 名、公立中学：101 名、私立中学：20 名

調査方法：インターネットによる調査

※イーオンが今夏実施した、中学・高校英語教師対象の「英語を英語で教えるための指導法セミナー」開催にあたり、参加希望者の応募条件として調査。

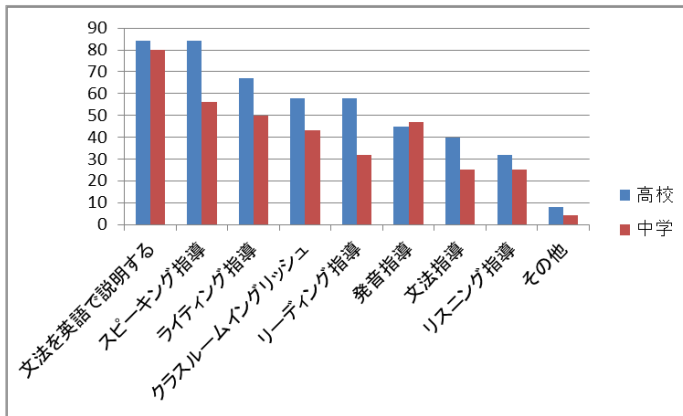
■調査結果サマリー

【現在の英語授業・教授法について】

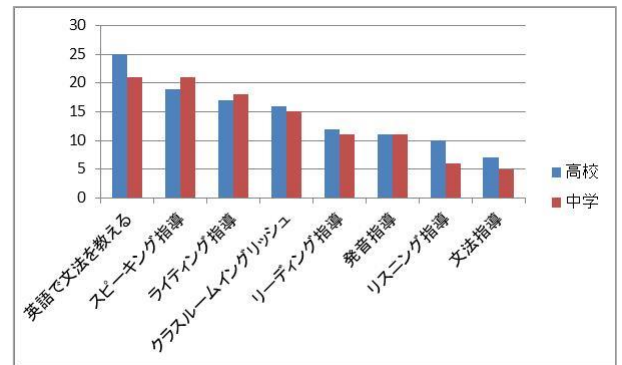
1-1. サポートが必要だと感じていること・困難を感じていることについて ※複数回答

現在の授業、教授法について、サポートが必要であると感じていることについて尋ねたところ、「文法を英語で説明する」ことについて、サポートが必要と感じている先生が全体で 164 名（中学 80／高校 84）と過半数を超え、昨年の調査同様、最も多い結果となりました。

以下、中高ともに「スピーキング指導」が 140 名（中学 56／高校 84）、「ライティング指導」が 117 名（中学 50／高校 67）と続きました。



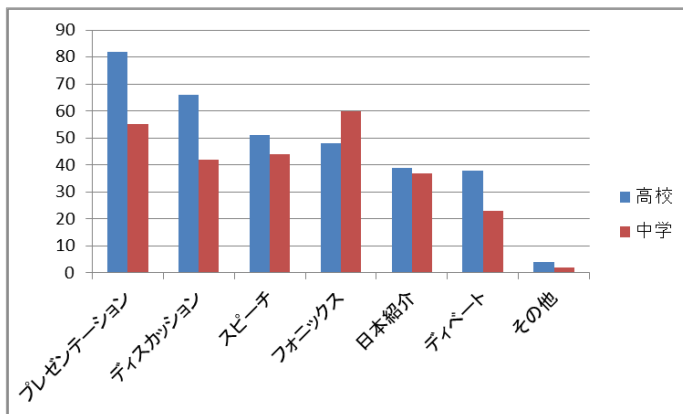
【ご参考：2014 年調査結果（n=90）】



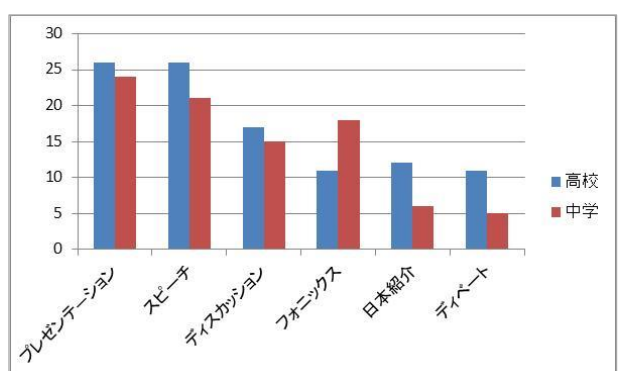
1-2. 教科書にもっと盛り込んで欲しいと思うスキルや内容について ※複数回答

現在の中学、高校の英語教育で、教科書にもっと盛り込んで欲しいと思うスキル・内容について尋ねたところ、高校では「プレゼンテーション」が 82 名でトップとなりました。以下「ディスカッション」（66 名）、「スピーチ」（51 名）と続き、昨年同様「話す」スキルに対する項目が並ぶ結果となりました。一方、中学では、「フォニックス^{※1}」が約半数となる 60 名に上りトップに。より基礎的な項目が挙げられる傾向が強まる結果となりました。

※1：もともと英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発されたもので、英語の「音」を「文字」に結びつけるためのルールを学ぶ音声学習法。アルファベット ABC の 26 文字の「音」を知ること、英語の単語を読むことができるようになるという学習法。



【ご参考：2014 年調査結果（n=90）】



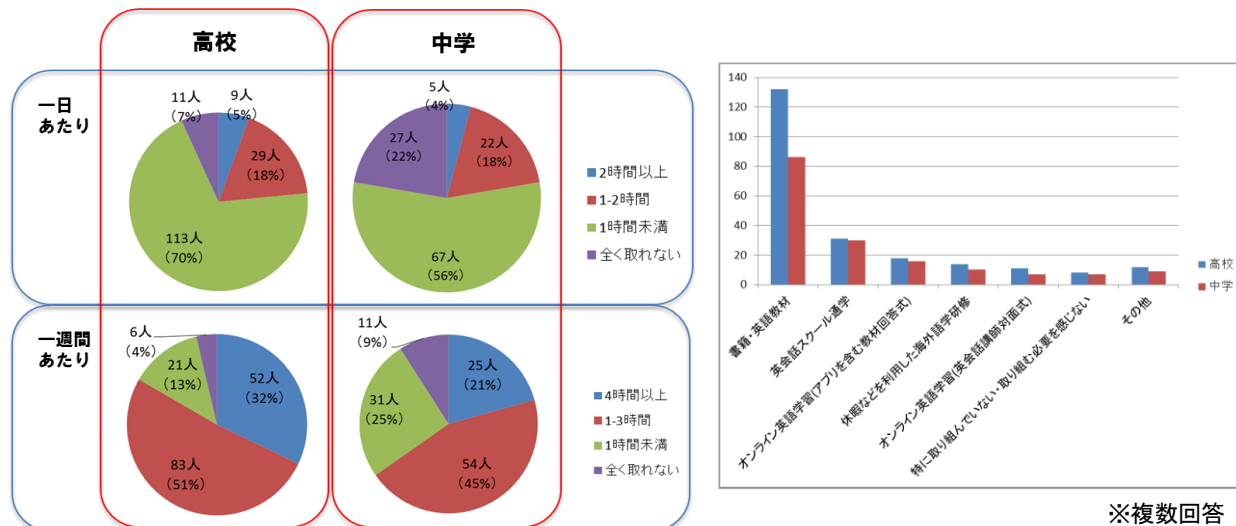
【先生自身の学習環境について】

2-1. 自身の英語スキルアップにかけられる時間について

先生自身の英語力アップのための取り組みについて、どれぐらい日常的に時間を割けているのかを尋ねたところ、中高ともに1日1時間未満（全く取れないを含む）という回答が約8割という結果となりました。ただし、特に高校では「全く取れない」と回答した割合が全体の1割以下となっており、9割以上の方が限られた時間の中で、どうにかやりくりしてスキルアップの時間を確保しようとしている様子が見て取れました。

週単位でみると、週1時間以上確保できている方が高校で8割以上、中学でも6割以上となり、特に高校では「4時間以上」と回答した方も3割を超えるなど、比較的中学に比べスキルアップに時間をかけられているという結果となりました。

スキルアップのための具体的な取り組みとしては、「書籍・教材による学習」を挙げる先生が全体で218名（中学86／高校132）に達し、トップとなりました。



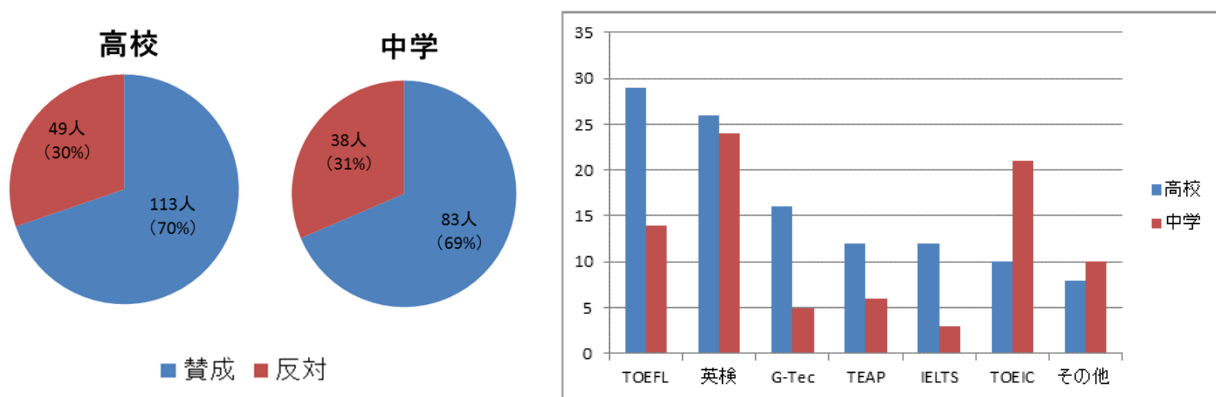
【大学受験・英語科目について】

3-1. 大学受験・英語科目への外部試験導入について

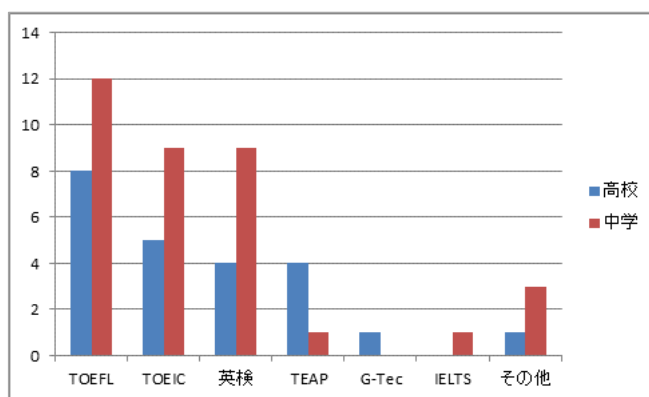
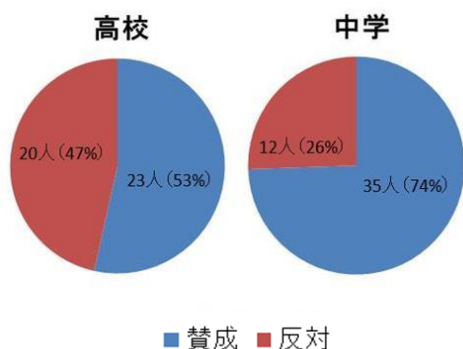
近年議論が高まっている大学入試での英語科目の外部試験導入について、どのように考えているのかを尋ねたところ、導入に賛成する声が高中ともに約7割に上る結果となりました。

また賛成と答えた先生には、どの外部試験がふさわしいかも挙げてもらったところ、昨年1位に挙げられたTOEFLは43名（中学14／高校29）で高校ではトップとなったものの、総合では英検が50名（中学24／高校26）で1位となり、英検に対する再評価が見られる結果となりました。一方、TOEICは31名（中学21／高校10）で、中学では2位につけたものの高校では最下位に終わり、評価が大きく割れる結果となりました。

また、G-TecやTEAP、IELTSにも、それぞれ15票を超える票が入るなど、特に高校を中心に票が割れており、外部試験に関する注目度が全体的に上がっていることが見て取れる結果となりました。



【ご参考：2014年調査結果（n=90）】



■外部試験導入に関する意見（抜粋）

【賛成】

- ・読解や文法の力のみでなく、4技能をバランスよく評価する必要があるから。（英検、公立中学）
- ・スピーキング、リスニングなど、英語でのアウトプットを重視した試験の方が、英語力がわかるため。（TOEFL、公立中学）
- ・他国の英語学習者との比較がしやすくグローバルな視点から英語能力を把握できるから。（TOEIC、公立中学）
- ・よりコミュニケーションの道具としての英語運用能力を測ることができるから。（G-Tec、公立高校）
- ・授業内でどんなにスピーキング活動などを行ったとしても、実際にその力を評価することが、現在のセンター試験では難しいから。（TOEFL、私立高校）
- ・4技能を測る試験に変えなければ、学校現場での授業スタイルを変えることは難しいから。（英検、公立高校）
- ・一般入試やセンター試験を利用しての進学を希望する生徒の多い学級では、授業で入試対策を行わざるを得なくなり、コミュニケーション能力の育成にかけられる時間がほとんどなくなってしまうため。（TOEIC、私立高校）
- ・現在の入試システムでは、世界で通用する人材が育たないと思う。（英検、私立高校）
- ・センター試験では、読み書きの最低限の力をつくが大学入学後を見据えた試験が行われてもいいと思う。（TOEFL、私立中学）
- ・1回の試験で結果を出すことよりも、生徒の学習の伸びをみていくことも大事だと思うから。（英検、私立高校）
- ・一発勝負ではなく、何度も受けられる試験の方が受験生の実力をより正確に測ることができる。（IELTS、公立高校）
- ・受験のためだけに多大な費用と労力をもってテストを作成するよりは、既存の様々な外部試験を使用した方が、コスト面でも多面的な評価面でもよいと思う。（G-Tec、私立高校）

【反対】

- ・現在のセンター試験の出題内容は受験生の基礎的な英語力を測定するには適している。（公立中学）
- ・外部試験だと、その試験を昔から受けているかどうかで差が出てしまうなど、平等な試験機会や学習環境が生徒に与えられていないため。（公立中学）
- ・センター試験は2技能を測定するのに適切な素材なので、残る2技能の測定法を考案する方がより現実的だと思う。（公立中学）
- ・外部試験は受験料が高く、経済的格差により生じる学力格差を増大させるものだと思う。（公立高校）
- ・センター試験とは別に、各大学の2次試験で、外部試験の成績を積極的に評価したり、英語運用能力を測る試験を実施すればよい。（私立高校）
- ・大学で学びたい内容によって、必要な英語力に差があるため。（公立中学）
- ・資格取得に近い外部試験と大学入試はわけて考えたほうがよい。（私立高校）
- ・大学入試に英語のハードルを高めるのではなく、大学入学後の英語学習を高める必要性があると感じる。（公立高校）
- ・外部試験はいろいろな種類があり、それぞれに対して十分な準備をすることが難しい。（私立高校）